

平成24年度 財務比率一覧

(1)消費収支計算書類関係比率

分 類	比 率 名	算 式	評	平成24年度 本学数値	平成23年度 大学法人 平均
経営状況はどうか	帰属収支差額比率	$(\text{帰属収入}-\text{消費支出}) \div \text{帰属収入}$	△	-0.7	3.4
収入構成はどう なっているか	学生生徒等納付金比率	$\text{学生生徒等納付金} \div \text{帰属収入}$	～	82.8	72.7
	寄付金比率	$\text{寄付金} \div \text{帰属収入}$	～	2.3	2.3
	補助金比率	$\text{補助金} \div \text{帰属収入}$	～	7.0	12.4
支出構成は適切 であるか	人件費比率	$\text{人件費} \div \text{帰属収入}$	▼	55.2	54.0
	教育研究経費比率	$\text{教育研究経費} \div \text{帰属収入}$	△	38.0	30.9
	管理経費比率	$\text{管理経費} \div \text{帰属収入}$	▼	6.6	8.7
	借入金等利息比率	$\text{借入金等利息} \div \text{帰属収入}$	▼	0	0.4
	基本金組入率	$\text{基本金組入額} \div \text{帰属収入}$	△	21.2	11.6
	減価償却費比率	$\text{減価償却額} \div \text{消費支出}$	～	9.9	11.3
収入と支出のバランス はとれているか	人件費依存率	$\text{人件費} \div \text{学生生徒等納付金}$	▼	66.7	74.4
	消費収支比率	$\text{消費支出} \div \text{消費収入}$	▼	127.8	109.2

(2)貸借対照表関係比率

分 類	比 率 名	算 式	評	平成24年度 本学数値	平成23年度 大学法人 平均
自己資金は充実 されているか	自己資金構成比率	$(\text{基本金}+\text{消費収支差額}) \div \text{総資金}$	△	89.4	86.9
	消費収支差額構成比率	$\text{消費収支差額} \div \text{総資金}$	△	-26.8	-10.5
	基本金比率	$\text{基本金} \div \text{基本金要組入額}$	△	100.0	97.1
長期資金で固定資産 は賄われているか	固定比率	$\text{固定資産} \div \text{自己資金}$	▼	88.2	100.1
	固定長期適合率	$\text{固定資産} \div (\text{自己資金}+\text{固定負債})$	▼	83.4	92.2
資産構成はどう なっているか	固定資産構成比率	$\text{固定資産} \div \text{総資産}$	▼	78.9	87.0
	流動資産構成比率	$\text{流動資産} \div \text{総資産}$	△	21.1	13.0
	減価償却比率	$\text{減価償却累計額} \div \text{減価償却資産取得価額}$	～	58.9	46.1
負債に備える資産が 蓄積されているか	流動比率	$\text{流動資産} \div \text{流動負債}$	△	386.6	230.3
	前受金保有率	$\text{現金預金} \div \text{前受金}$	△	422.1	311.7
	退職給与引当預金率	$\text{退職給与引当特定預金} \div \text{退職給与引当金}$	△	100.0	66.1
負債の割合はどうか	固定負債構成比率	$\text{固定負債} \div \text{総資金}$	▼	5.1	7.5
	流動負債構成比率	$\text{流動負債} \div \text{総資金}$	▼	5.5	5.6
	総負債比率	$(\text{固定負債}+\text{流動負債}) \div \text{総資産}$	▼	10.6	13.1
	負債比率	$\text{総負債} \div \text{自己資金}$	▼	11.8	15.1

(注) (1) 大学法人数値は、平成23年度平均(医科歯科系を除く)

(2) △…高い値が良い ▼…低い値が良い ～…どちらともいえない

(3) 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額 自己資金＝基本金＋消費収支差額

引用 『平成24年度版 今日の私学財政』より